

福岡県下における夏期ビジネススタイルファッションの実態と傾向

Actual Conditions and Trend of Summer Business-style Fashion in Fukuoka

松山 朋子

堀 雅子

Tomoko MATSUYAMA

Masako HORI

福岡教育大学 大学院教育学研究科

福岡教育大学 家政教育講座

(平成19年10月1日受理)

Abstract

The aim of the present study was to investigate the actual conditions and trend of summer business-style fashion to popularized "COOL BIZ". Wearing conditions of male persons working in Fukuoka were examined using a fixed point observation method by means of digital photography. Based on hundreds of pictures of walking pedestrians at a crossroad near a big terminal station, Hakata, taken in about 10-days intervals from June to September 2006, male business-style fashion were classified and compared.

From the results, it was estimated that no-wearing percentage of jackets was 64.8%, no-wearing percentage of ties was 41.0% in summer. The approach to "COOL BIZ" in Fukuoka was found passively.

KeyWords: COOL BIZ, business-style fashion, fixed point observation method

キーワード: クールビズ ビジネススタイルファッション 定点観測法

1. 緒言

2005年度, 環境省は, 温室効果ガス排出量6%削減目標を実現するために地球温暖化防止国民運動“チーム・マイナス6%¹⁾”の活動の一つとして, 夏のオフィスの設定温度を28℃にすることを広く呼びかけた²⁾。その解決策として, オフィスで快適に過ごすために, ノーネクタイ・ノー上着という, 夏の軽装“COOL BIZ(クールビズ)”を提唱している³⁾。“ビズ”はビジネスの意味で, “夏を涼しく過ごすための新しいビジネススタイル”という意味が込められたものである。それに伴い, 政治家たちが率先してノー上着・ノーネクタイを実践した³⁾。これらの取り組みに加え, スーツ専門店・百貨店でもクールビズを推奨し, クールビズコーナーを設置するなどの取り組みが行われた。また, 政府は民間企業のクールビズへの参加を目的としたファッションショー“COOL BIZ Collection”において, モデルに財界人を起用するなどの取り組みを実施した³⁾。

以上の取り組みの結果, 環境省が2005年9月に行ったクールビズの実施状況に関するアンケート調査⁴⁾では, クールビズの認知度は95.8%であり高い認知度であるとの報告であった。また, その調査によると“勤務先が例年より冷房温度を高く設定している”と回答した就業者は32.7%であったと報告されている。2006年に行った同アンケートの結果⁵⁾では, クールビズの認知度は96.1%, “エアコンの冷房温度を今年または昨年から高く設定している”と回答した就業者は41.1%であったと報告されており, クールビズに関する取り組みが広がっていることが予想される。また, クールビズの取り組み内容については, 財団法人省エネルギーセンターが2005年8月下旬に企業および自治体2870件(うち九州290件)に対して行ったアンケート調査⁶⁾によると, 78.3%の企業および自治体がクールビズを実施していると回答しており, 実施している企業および自治体のクールビズ内容は, ノーネクタイが87.9%, ノー

上着が72.5%、半袖ワイシャツが57.7%と、ノーネクタイの取り組みが多いとの報告であった。

クールビズに関しては、石野らがノー上着、ノーネクタイの効果について、半袖ワイシャツにノーネクタイ姿ならば、室温28度でも快適範囲であることを実証している⁷⁾。また、石丸は、ノー上着、ノーネクタイだけでなく、衣服の素材や織り組織、開口部、皮膚と衣服との間隙なども衣服内環境に影響を与える重要な知見であると述べている⁸⁾。本研究室においても2005年度ビジネススタイルファッションに対して大学生に行った意識調査研究がある⁹⁾。それには、本校の大学生が考える理想のクールビズスタイルが半袖シャツにノーネクタイ姿であったと述べられていた。しかしその一方で、現実では、就職試験や教育実習など場面によって使い分けの必要性を感じていることや、ノーネクタイはだらしがないなどの意見があるとの報告であった。このことから、理想のクールビズスタイルファッションと現実のビジネススタイルファッションとの間にギャップが生じているのではないかと考えた。

2005年度、環境省の推奨で広まった夏期の軽装であるクールビズは、2006年度も定着したのであろうか。高温多湿の日本、特に夏が暑い福岡県では夏期のビジネススタイルファッションにクールビズスタイルが必要であると考え、全ての企業で取り入れられているとは言い難い。しかしながら、冷房の設定温度を28℃にすることは、エネルギーの削減となり、地球環境にやさしい取り組みであると同時に、会社自体の経費削減にもつながるものである。会社および会社で働く人にとって、より快適に仕事ができるクールビズスタイルを追求していく必要があるのではないだろうか。

また、上述した省エネルギーセンターなどの全国的なアンケートは、関東地方の回答数が多く、環境状況の違う福岡県でのビジネススタイルファッションの実態は違うのではないかと考えた。

そこで本研究では、今後のクールビズの普及と夏期におけるより良い男性のビジネススタイルファッションを追求するために、福岡県における男性の夏期ビジネススタイルファッションの実態を調べるべく、田村ら¹⁰⁾の定点観測法を参考に、実際に街角で男性の服装をデジタルカメラで撮影し、得られたデータを分類し、比較・検討した。

2. 方法

2.1 調査方法

調査方法として、定点観測法¹⁰⁾を用いた。本研究の定点観測法は、福岡県のビジネス中心地であるJR博多駅周辺の交差点において横断歩道を渡る歩行者を、デジタルカメラ(SONY製DSC-H5)で撮影し、その写真に写っている人の着衣を観察するものである。(写真例)



2.2 調査期間および調査時間

調査期間は2006年6月から9月までの4ヶ月に亘り、月3回、約10日間隔で実施した合計12日間である。6月1日から9月30日までの期間は、公の機関などが夏期の衣替え期間としており、本研究においてこの期間を夏期とした。また、夏期と比較するため11月7日にも調査を実施した。調査日および天気を表1に示す。調査時間は、昼食時で会社員が多いと予想される12時~13時の1時間を設定した。写真撮影は信号の変わる時間である2分間隔で行った。

表1. 調査日および天気

2006年	調査日(天気)
6月	8日(晴れ), 15日(晴れ), 28日(曇り)
7月	12日(晴れ), 26日(晴れ), 31日(晴れ)
8月	7日(晴れ), 21日(晴れ), 31日(雨)
9月	8日(晴れ), 20日(晴れ), 28日(晴れ)

計12日

11月	7日(晴れ)	※夏期と比較するために実施。
-----	--------	----------------

2.3 調査場所

福岡県福岡市博多駅周辺の横断歩道にて調査を実施した。博多駅は九州新幹線・JR鹿児島本線・地下鉄空港線などの駅があり、人々が多く集中する福岡県の中心地のひとつである。また、オフィ

ス街で会社が多いため、ビジネスマンが多く集まる場所である。

調査場所の環境状況は、温湿度データロガー(エムケー・サイエンティフィック製 EL-USB 2)を用いて相対湿度を、多機能デジタル風速計・温度計(EMPEX WINDMESSE)を用いて気温・風速を測定した。

2. 4 調査対象

赤信号の横断歩道で立ち止まっている歩行者を、横断歩道の幅内に写る範囲でデジタルカメラを用い撮影した。撮影された写真より、全身の2/3以上写っている人の中で、男性を調査対象とした。

2. 5 調査項目

著者らが想定した対象者の服装分類基準である9項目を以下に示す。

1. 上着は何を着用しているか
 - a. 背広着用 b. 背広以外 c. 背広を持っている d. 着ていない
 2. シャツの種類
 - a. カッターシャツ b. ポロシャツ c. Tシャツ
 3. 袖丈
 - a. 長袖 b. 7分袖 c. 3分袖(半袖) d. 袖なし
- ※袖丈は、最外衣の袖の長さとし、背広着用の場合、長袖と分類した。
4. 首もと
 - a. ネクタイ b. ネクタイ以外 c. 何もしていない
 5. 襟もと
 - a. 閉襟 b. 開襟
 6. シャツをズボンに入れているか
 - a. 入れている b. 入っていない(オーバーシャツ)
 7. ズボンの種類
 - a. スーツのズボン b. ジーンズ c. 綿パンツ d. 短パン
 8. 靴の種類
 - a. 革靴 b. スニーカー
 9. シャツの色と柄
 - a. 白を基調とした色 b. 濃い色 c. 柄シャツ d. プリント

以上の項目に当てはまらないものはその他、見えない部分は不明と分類した。これら9項目を用いた分類例を図1に示す。以上の項目を用いて対象者である男性の服装を分類し、比較・検討した。



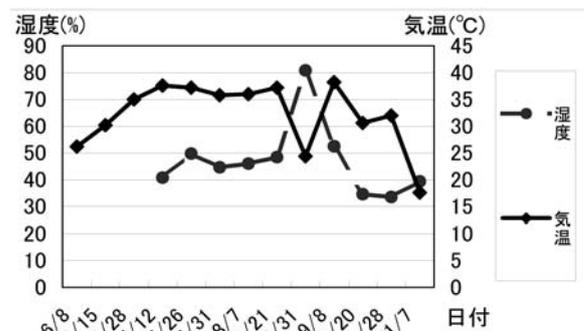
図1. 分類例

1. 上着・・・背広を着ている
2. シャツ・・・カッターシャツ
3. 袖丈・・・長袖
4. 首もと・・・何もしていない
5. 襟もと・・・開襟
6. シャツ・・・ズボンに入れている
7. ズボン・・・スーツのズボン
8. 靴の種類・・・革靴
9. シャツ色・・・白を基調とした色

3. 結果と考察

3. 1 調査場所の環境状況

調査場所の環境状況を図2に示す。各月の平均気温は、6月30.5度、7月36.9度、8月32.5度、9月33.6度であり、6月が他の月に比べ少し低いものの、2006年夏期の調査場所の環境状況は暑熱環境であったことがわかる。8月31日は天候が雨であったため、気温は25℃と低めではあるが、相対湿度が80%と高く蒸し暑い環境であった。夏期と比較するために行った11月の環境状況は、気温17.6℃、相対湿度39.4%であった。



※風速は0.3~0.8m/sと一定であった。

図2. 調査場所の環境状況

3. 2 調査対象

調査対象の人数結果を表2に示す。撮影した写真は1日30枚であった。その中から上述した対象条件に基づき選定した結果、調査対象者は一日平均約150人であった。調査対象者である男性の夏期合計人数は1817人であり、女性を含めた総数2898人中、6割弱の割合であった。このことは、調査場所をオフィス街である博多駅周辺にしたことが影響していると考えられる。

表 2. 調査対象の人数

2006年	人数(人)
6月	491
7月	448
8月	407
9月	471
合計	1817

11月7日 170人

※ 1日平均 151人

※ 総数 2898人(女性を含む夏期の人数)

3. 3 調査項目について

3. 3. 1 上着は何を着ているか

上着は何を着ているかの結果を図3に示す。夏期の合計では、a, b 合わせ上着を着ている人は31.4%と約3割であった。11月の上着を着ている人の割合85.8%と比較しても、夏期に上着を着ている人は少なくなることがわかる。また、上着を着ていない人は背広を手持っている人を加えると、68.6%と大半であった。月ごとの変化は、a. 背広を着ている人の割合が6月から8月にかけて約25%減少し、9月に約18%増加していた。逆に、d. 上着を着ていない人は、6月から8月にかけて約25%増加し、9月に約15%減少していた。7・8月になるにつれ上着を着なくなる人が増え、その割合は7割と高いことがわかった。

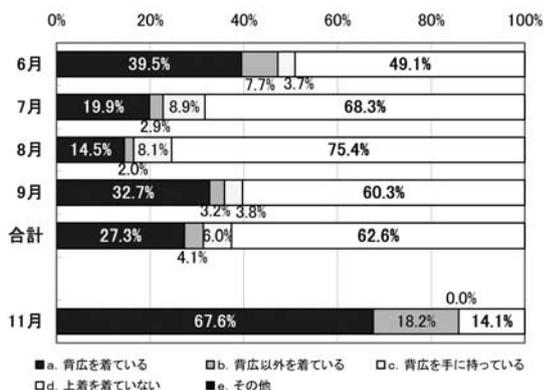


図 3 上着は何を着ているか

3. 3. 2 シャツの種類

シャツの種類の結果を図4に示す。夏期の合計では、a. カッターシャツが79.9%と大半を占め、b. ポロシャツは5.8%と1割にも満たなかった。c. Tシャツは11.8%と1割であった。11月のa. カッターシャツの割合84.1%と夏期の割合を比較しても大きな変化はなかった。月ごとの変化も少

なかった。

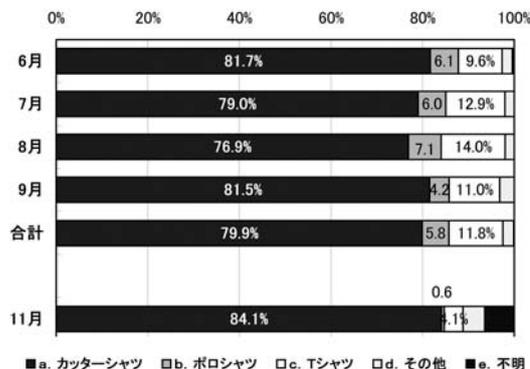


図 4 シャツの種類

3. 3. 3 袖丈

袖丈の結果を図5に示す。袖丈とは、最外衣の袖丈の長さのことである。背広を着ている場合は、長袖に分類した。夏期の合計では、a. 長袖が53.7%と高い割合を示した。b. 7分袖は腕まくりをしている人も含め、7.0%とわずかであるが存在した。c. 3分袖である半袖は、38.3%であった。月ごとの変化は、c. 3分袖の割合が7・8月にかけて増加していたが8月でも54.1%と半数を超えただけであった。

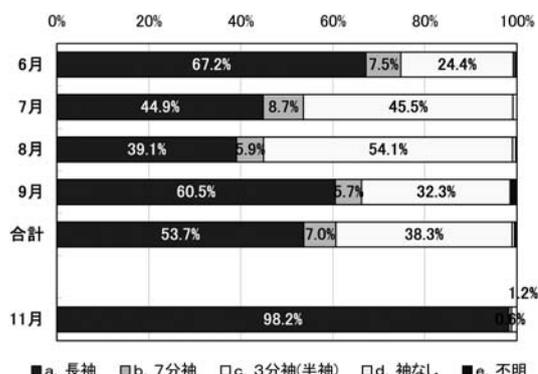


図 5 袖丈(最外衣)

3. 3. 4 首もと

首もとの結果を図6に示す。夏期の合計では、a. ネクタイをしている人48.2%, c. 何もしていない人51.3%と同等の割合であった。11月のa. ネクタイをしている人の割合71.8%と比較すると夏期にネクタイをしている人の割合は低くなることがわかった。月ごとの変化をみると、6月から8月にかけてa. ネクタイをしている人の割合が約15%減少し、9月に約10%増加していた。

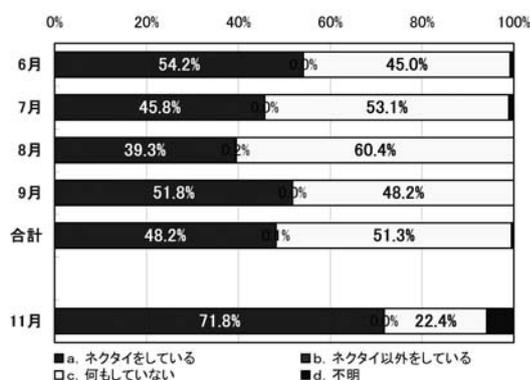


図6 首もと

3. 3. 5 襟もと

襟もとの結果を図7に示す。夏期の合計では、a. 閉襟49.0%で、b. 開襟36.5%と閉襟のほうが高い割合を示した。このことは前項の首もとの結果が大きく関係している。月ごとの変化も首もとと同様に、閉襟の割合が6月から8月にかけて減少していた。衣服の襟を開けると、空気の対流が生じやすく、暑さを和らげるのに効果的であるが、閉襟ではその効果が望めないため、ノーネクタイ・開襟の普及が望まれる。

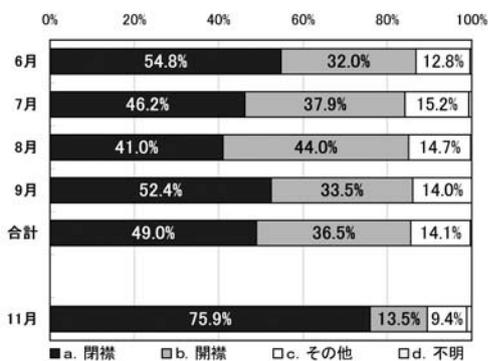


図7 襟もと

3. 3. 6 シャツをズボンに入れているか

シャツをズボンに入れているかの結果を図8に示す。夏期の合計では、a. シャツをズボンに入れている人が75.5%と全体の3/4を占め、b. シャツをズボンに入っていない人は20.3%であった。結果から、シャツをズボンに入れている人が多いことがわかった。シャツをズボンに入れないタイプのオーバーシャツは、空気の対流が生じやすく、暑さを和らげるのに効果的であるが、シャツインではその効果が望めないため、オーバーシャツの普及を検討する必要があることがわかった。月ごとの変化は少なかった。

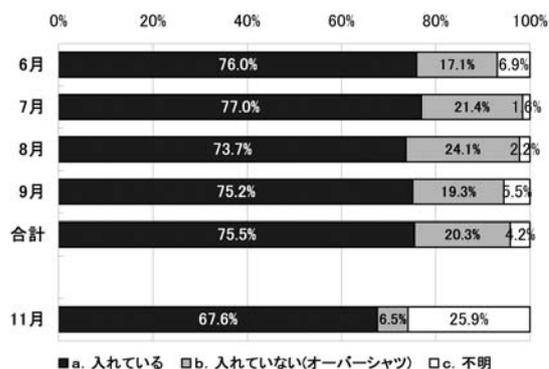


図8 シャツをズボンに入れているか

3. 3. 7 ズボンの種類

ズボンの種類の結果を図9に示す。夏期の合計では、a. スーツのズボンが75.3%と大半を占め、ついでb. ジーンズが10.5%、c. 綿パンツが10.1%であった。また、7・8月にd. 半ズボンが現れるがごく僅かであった。月ごとの変化は少なく、スーツのズボンをはいている人が男性の約75%と多いことがわかった。

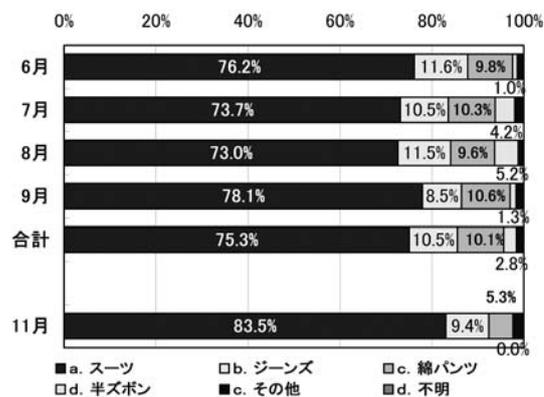


図9 ズボンの種類

3. 3. 8 靴の種類

靴の種類の結果、夏期の合計では、a. 革靴が73.9%で、大半の人は革靴をはいていることがわかった。また、b. スニーカーは、18.5%と若干多いことがわかった。月ごとの変化は少なかった。今回の調査は写真での分類であるため、革靴の種類まで詳しく見ることはできなかった。

3. 3. 9 シャツの色と柄

シャツの色と柄の結果、夏期の合計では、a. 白を基調とした色のシャツが82.8%と大半を占め、b. 濃い色のシャツは10.3%、ほかには柄シャツやプリントシャツを着ていた。最近ではカッターシャツやポロシャツなどの種類も豊富になっており、シャツの色や柄を楽しみオシャレをする人が多くなると予想したが、11月のa. 白を基調とした色

の割合が84.7%と差がないことから、意識してシャツの色や柄を選んでいる傾向は、現時点では低いといえる。

3. 4 服装パターンの分類について

3. 4. 1 服装パターンの考案

前項の9項目の調査項目を組み合わせ、本研究室の先行研究⁹⁾をもとに男性の夏期の服装パターンを11種類に分類した。その服装パターンを図10に示す。Aタイプはスーツ上下にネクタイをしている姿、BタイプはAから背広を脱いだ長袖シャツの姿、Cタイプはネクタイに半袖シャツの姿である。次に、Dタイプは政治家に多く見られるスーツ上下にネクタイをはずした姿、EタイプはDから背広を脱いだ長袖・ノーネクタイの姿、Fタイプは半袖・ノーネクタイ姿である。Gタイプは作業着やジャンパーにスーツ・綿のズボン姿、Hタイプはポロシャツにスーツ・綿のズボン姿である。IタイプはTシャツにジーンズなどのズボン姿、Jタイプはポロシャツにジーンズなどのズボン姿、Kタイプは短パン姿である。服装パターンに当てはまらない対象者はその他とした。以上の11種類の服装パターンを用い、調査対象者を分類した。

3. 4. 2 服装パターンでみる夏期男性のスタイルファッション

夏期全体の男性のスタイルファッションの分類結果を図11に示す。夏期の合計では、スーツ上下のAタイプが403人(22.2%)と一番多く、次いでBタイプの332人(18.3%)、Cタイプ120人(6.6%)と合わせて、ネクタイをしている服装パターンが約50%と高い割合を占めた。次に、スーツ上下にネクタイなしのDタイプは77人(4.2%)と少なかった。これにEタイプ171人(9.4%)、Fタイプ255人(14.0%)を合わせて、カッターシャツにネクタイをしていない服装パターンは約30%であった。また、ジャンパー姿にスーツや綿ズボンのGタイプは30人(1.7%)、ポロシャツ姿にスーツや綿ズボンのHタイプは60人(3.3%)と少なかった。スーツや綿パンツ以外のズボンの服装では、Tシャツに長ズボン(ジーンズ)のIタイプが184人(10.1%)であり、ポロシャツにジーンズのJタイプは90人(5.0%)、短パン姿のKタイプは51人(2.8%)であった。

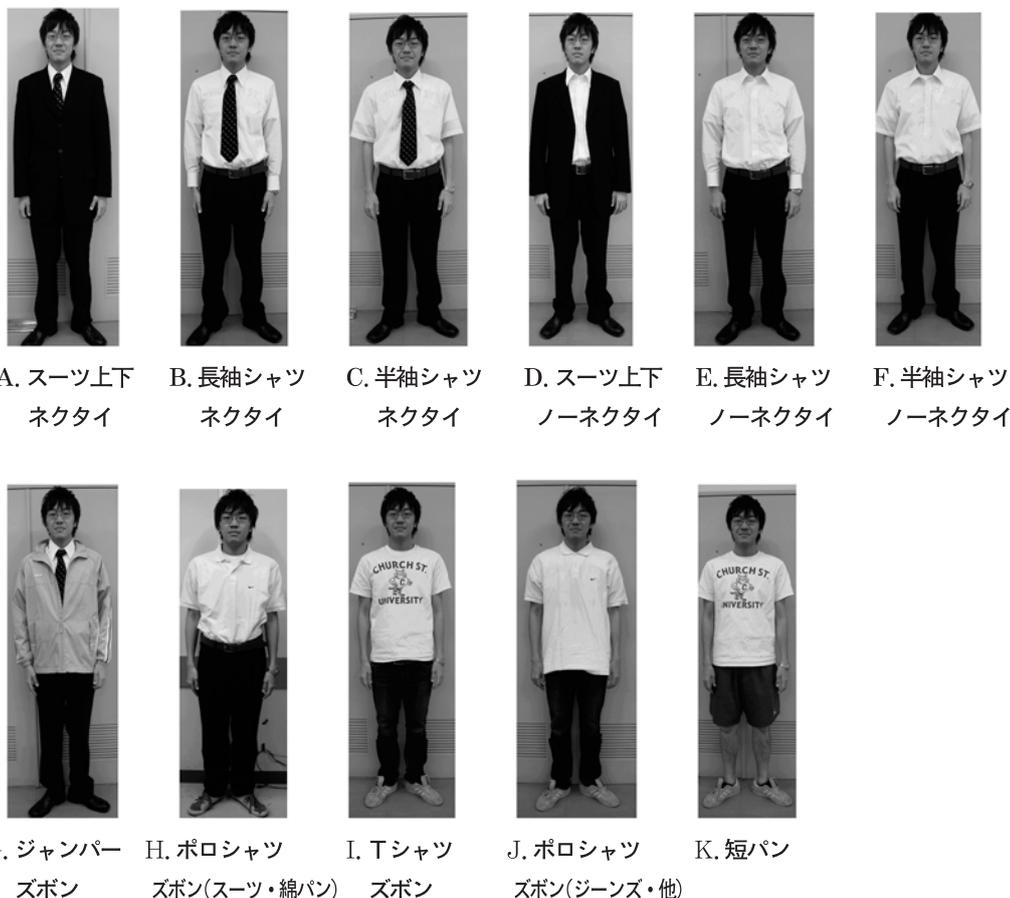


図 10. 服装パターン

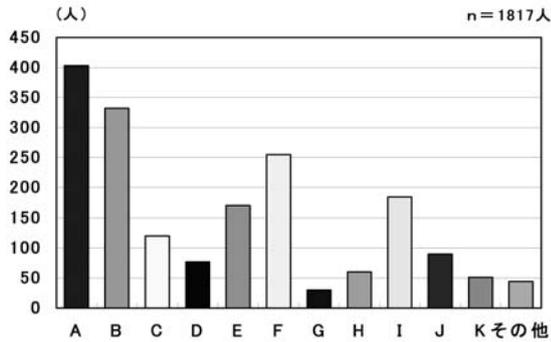


図11 服装パターンによる分類(夏期全体)

服装パターンの月変化を図12に示す。スーツ上下にネクタイ姿のAタイプでは、6月から8月にかけて、32.2%から16.7%、11.8%と約20%減少し、9月で約14%増加している。Aタイプから背広を脱いだBタイプは18.3%と夏期全体を通し、一定して約2割存在した。半袖・ネクタイ姿のCタイプは夏期全体で6.6%と低い割合であったが、7月に7.1%8月に10.1%まで増加した。政治家に多く見られるスーツ上下にノーネクタイ姿のDタイプは、夏期全体で4.2%と福岡の本調査では低い結果であった。長袖シャツにノーネクタイ姿のEタイプは、9.4%と夏期全体を通し、一定して約1割存在した。半袖・ノーネクタイのFタイプは、6月から8月にかけて7.5%から17.0%・20.6%と約13%増加し、9月に約8%減少している。G～Kタイプは、どのタイプも一定の割合はあったものの、月ごとの大きな変化はみられなかった。以上の結果、月ごとでは7・8月にAタイプが減少

しFタイプが増加するという大きな変化が見られた。

また、どのパターンの服装も夏期に一定の人数存在することから、福岡県の夏期における男性のスタイルファッションが多様化していることがわかった。

3.5 ビジネススタイルファッション

福岡教育大学においてアンケート調査を行った2005年度先行研究の結果⁹⁾では、多くの人がTシャツ・半ズボンがビジネススタイルファッションに適さないと考えているという報告であった。それに加えて、ジーンズもビジネススタイルファッションと認められない場合が多いことから、Tシャツ姿のIタイプ、ジーンズ姿のJタイプ、短パン姿のKタイプの3タイプの服装はビジネススタイルファッションに適さないと考えられる。よって本研究では、ビジネススタイルファッションを、スーツ上下にネクタイ姿のAタイプからポロシャツにスーツや綿ズボン姿のHタイプまでの8タイプであると想定した。

服装パターンAからHタイプまでがビジネススタイルファッションをしている人(=ビジネスマン)であると仮定すると、男性全体のうち調査場所でのビジネスマンの割合は、夏期全体では79.7%、11月では82.4%であり、ともに約8割と確認された。

AからHタイプまでのビジネススタイルファッションの割合を図13に示す。

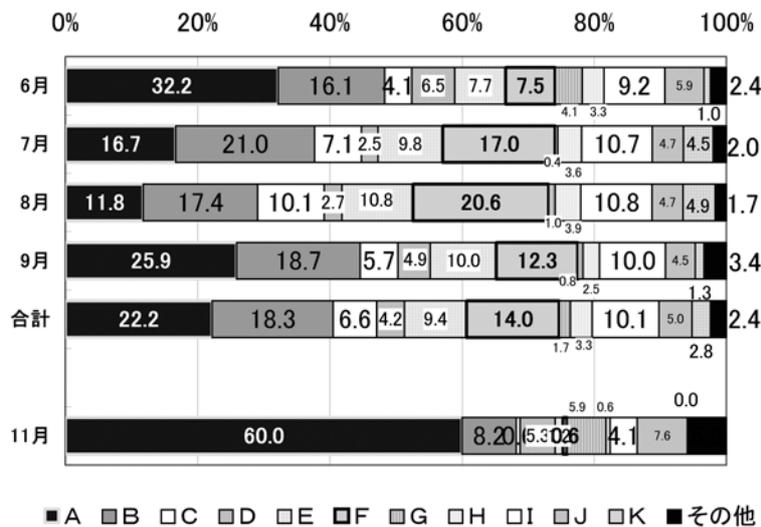


図12 服装パターンの月変化

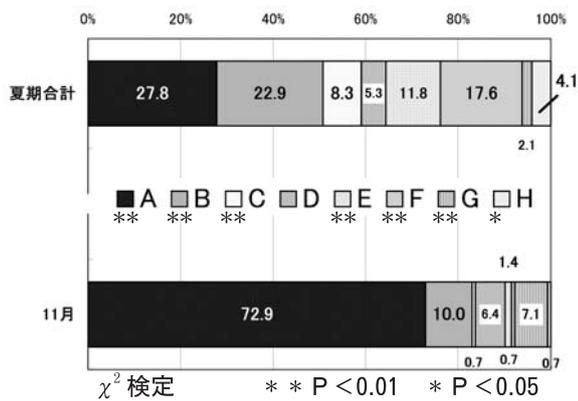


図13 夏期合計と11月のビジネススタイルファッション

11月のビジネススタイルファッションに比べて、B・C・E・F・Hタイプの服装は夏期に多くなり(B・C・E・F：P<0.01, H：P<0.05), A・Gタイプの服装は夏期の方が少なくなる(P<0.01)ことがわかった。背広にネクタイ姿のAタイプが夏期に少なくなる結果は評価できる。しかし、夏期全体で27.8%はまだ多いのではないかと考える。加えて、半袖ノーネクタイのFタイプ、ポロシャツのHタイプは、11月と比べ夏期で多くなるが、夏期全体でFタイプ17.6%, Hタイプ4.1%と少ないことがわかる。

以上の結果をもとに、クールビズにおけるノー上着・ノーネクタイの調査場所での取り組み割合を見ると、背広や上着を着ていない服装であるB・C・E・F・Hタイプを合わせた64.8%が、ノー上着の割合と考えられる。同様に、ネクタイをしていないD・E・F・G・Hタイプを合わせた41.0%が、ノーネクタイの割合と考えられる。よって、福岡県下でのクールビズの取り組み結果は、ノー上着が64.8%, ノーネクタイが41.0%である。

全国のクールビズの取り組み結果をみると、財団法人省エネルギーセンターの2005年度の調査結果⁶⁾では、ノーネクタイ87.9%, ノー上着72.5%という報告であり、全国と比較して、福岡県下ではクールビズの取り組みが少ないことがわかった。特に、ノーネクタイの取り組みが少ないことがわかった。

今後の提案として、ノーネクタイの広い普及が期待され、また、ポロシャツのHタイプが少ないことやオーバーシャツが少ないことから、沖縄のかりゆし(沖縄版アロハシャツ)のような開襟でオーバーシャツのものや吸湿性の高いニット素材のものが多く着用されることが望まれる。そのために、襟元をあけてもだらしなく見えないシャツやカジュアルすぎないニット素材のポロシャツ、といった

ビジネス場面にふさわしい服装デザインの普及が期待される。

4. まとめ

2005年度、環境省はノーネクタイ・ノー上着といった男性の夏の軽装“COOL BIZ(クールビズ)”を推奨した。そこで今後のクールビズの普及と夏期におけるより良い男性のビジネススタイルファッションを追求する必要があると考え、夏の暑い福岡県において実態と傾向を調べるべく、定点観測法を用い、街角で男性の服装をデジタルカメラで撮影し、対象者を分類、比較した。結果は次の通りである。

まず、上着を着ていない人は夏期全体で7割と大半を占めており高い割合であった。また、ネクタイをしている人は夏期全体で半数と高い割合を占めた。オーバーシャツは約2割と少なかった。

次に、服装パターンは、7・8月にスーツ上下にネクタイ姿のAタイプが減少し、半袖シャツにノーネクタイのFタイプが増加していた。しかし、男性全体で8割いると確認されたビジネスマン中の割合では、半袖シャツにノーネクタイのFタイプは17.6%, ポロシャツ姿のHタイプは4.1%と少なかった。

本調査でのビジネスマンのクールビズ取り組み割合はノー上着が64.8%, ノーネクタイが41.0%であると推定された。2005年度の全国のクールビズの取り組み結果は、ノーネクタイ87.9%, ノー上着72.5%という報告であり、全国と比較して、福岡県下ではクールビズの取り組みが少ない。加えて、服装パターンの分類結果から2005年度に推奨され取り組みが広まったクールビズの影響で、男性のビジネススタイルファッションが多様化していることがわかった。今はその過渡期であり今後さらに変化していくと予想される。

近年、地球温暖化による影響は予測を上回っているとの研究結果があったことから、いち早くクールビズが浸透することが望まれる。福岡県の暑い夏を快適に過ごすために、クールビズへの理解と取り組みが継続し、より発展することを期待する。

謝辞

本研究にモデルとして協力して下さった、福岡教育大学学生川端圭祐氏に心より感謝します。また、本研究は、第10回福岡県環境教育学会(2007年、福岡教育大学)において発表しました。

参考文献

- 1) チームマイナス6% <http://www.team-6.jp/about/team6/index.html>
- 2) 環境省ホームページ
<http://www.env.go.jp/earth/info/coolbiz/>
- 3) 土居健太郎, 特集 COOL BIZ, 空気調和・衛生工学会誌, 80-7, 491-493, (2006)
- 4) 環境省 「COOL BIZ」の実施状況に関するアンケート調査 2005年
<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=6491>
- 5) 環境省 「COOL BIZ」の実施状況に関するアンケート調査 2006年
<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=7690>
- 6) 財団法人省エネルギーセンター 2005年度夏のオフィスにおける軽装実態調査
http://www.eccj.or.jp/office_report/2p.html
- 7) 石野久彌, 大熊涼子, COOL BIZの室内温熱環境, 空気調和・衛生工学会誌, 80-7, 495-499, (2006)
- 8) 石丸 園子, COOL BIZを踏まえた衣服内環境, 空気調和・衛生工学会誌, 80-7, 511-514, (2006)
- 9) 梶原 央, 現代におけるビジネススタイルファッションの温熱生理学研究, 福岡教育大学, 被服学研究室, 卒業論文(2005)
- 10) 田村照子, 丸太直美, 現代社会における衣服着用率の季節変化(第一報 定点観測法の試み), 日本生気象学会誌, 40(s), 351-360, (2004)

